

若い力で 農業を盛り上げたい

私は、農家の7代目として農業を仕事にしています。ギャルメイクとおしゃれが大好きです。農業をやっている若い女の子はほとんどいません。そこで、インターネットを活用して、農業をしている全国の若い女性に呼びかけ、「農ing娘。」というグループをつくって、情報交換などを行っています。



みかこ……22才、秋田県在住



みかこさんの声は、「くりっくにっぼん」で聞けます。

小さい頃から、親の農作業を手伝っていましたが、跡を継ぐ気はまったくありませんでした。事務系の仕事に就きたいと思い、高校卒業後、専門学校へ入りました。でも、一日中室内にいるような仕事は合わない気がつき、専門学校を辞めたいと思うようになりました。でも学校を辞めることに反対する両親とはけんかになり、ついに家出しました。すると両親はようやく退学を認めてくれました。家に戻ったものの、やりたいことが見つかりませんでした。何をしたいのか、何をすべきなのかわからず、毎日ぶらぶらと時間を過ごしていました。

そんなとき、両親から農作業を手伝うように言われました。小さい頃は、種の仕分けといった細かく面倒な手作業をさせられていたので、農業はつまらないというイメージをずっともっていました。でも、初めてト



いろいろな機械もひとりで使いこなします。

ラクターを運転させてもらったり、以前はなかったような新しい機械を使わせてもらったりしました。そこで初めて「農業っておもしろい!」と感じ、「地味で単調、つまらない」という農業に対するイメージが消えました。機械を使う楽しさだけではなく、自分で一から育てた農作物を収穫したときの喜びも知りました。そこから次第に農業に「ハマる」ようになりました。

そして今では、お米、ねぎ、玉ねぎ、とうもろこし、なす、トマト、枝豆、じゃがいも、かぼちゃ、チンゲン菜、アスパラガス、キャベツ、白菜などを作っています。

農業を通じて出会った人たち

本格的に農業を始めてみると、さまざまな人との出会いがありました。私はブログやツイッターで日々の様子を発信してい

ます。それらを通じて、農業をしている全国各地の若い女性と知り合えたことは私にとってとても大きな心の支えになっています。彼女たちとは「農ing娘。」というグループをつくり、主にブログやメールで、農業について情報交換したり、いろいろな悩みを相談したり、実際に会って親睦を深めたりしています。現在は20名ほどのメンバーがいます。農業従事者は高齢男性が多いため、今までは、気軽に話をしたり仕事の悩みを相談したりする相手がなくて、孤独を感じることもありました。インターネットを通じて同世代の女の子と同じ目線で共通の話ができることは本当に嬉しいです。そのほかにも、農家以外の人がたくさん応援してくれるようになりました。私のブログにメッセージを書いてくれたり、会いに来てくれたりする人もいます。とても励まされています。たくさんの人とのつながりや広がり、農業をやっていて一番よかったと思うことです。

農業ブームへの複雑な思い

この数年、「カッコいい」「心の癒し」といったイメージで農業がメディアでよく取り上げられるようになりました。派手でおしゃれな格好で週末などに農業体験をする東京の若いギャルが注目されたりもしています。農業のイメージが良くなって、多くの人が農業に興味をもつことはとてもいいことだと思います。

でも、最近のブームに乗って気軽に農業を始める都会の人は、「癒し」「会社で働くよりも農業のほうが人間関係が煩わしくない」



ネギの皮剥き。畑に出るだけではなく、このような細かく地味な作業がたくさんあります。

「簡単で気晴らしになる」「農業は農作物を育てるだけでいい」というイメージを農業に対してもっている人が多いような気がします。

でも、実際は全く違います。夏は灼熱のなかで作業をしなくてはなりません。体力的にとってもつらくて、「癒し」という甘いものではありません。週末の休みも、長い休みもありません。何時から何時までという定時で働くわけでもありません。農業は一人ではできないので、さまざまな人と関わらなくてはなりません。そのため、人間関係はとても大変です。農作物も作りっぱなしではなくて、利益がでる販売方法を考えなければなりません。気晴らしどころか精神的に追い詰められることもあります。

私の農場でも、ブームに影響を受け農業をしたいという人を数名、研修生として受け入れたことがあります。でも彼らは、イメージと実際の現場のギャップについていけず、「きつい」「休みがない」と文句ばかりを言って挫折しました。

このように、農業で生計を立てるということは、楽なものでも簡単なものでもありません。メディアが農業のイメージを良くして、そのことで多くの人が関心をもってくれることはいいことだと思います。だけど、私は日々真剣に悩みながら農業の厳しさと向きあっているので、農業は楽だからというイメージだけで農業を始める人を見ると、どうしても少し腹立たしい気持ちになります。

不安と闘いながら

もちろん、私だって、挫折しそうになったことはあります。農業を始めたときは、「女のくせに機械に乗るなんて」とブログで悪口を書かれたこともあります。



自分が育てた作物が実ったときは本当に嬉しいです。

また、空き缶を畑に投げ入れられたり、農作物を抜かれたりといった嫌がらせも受けました。農業を始めて4年ですが、大変なことがたくさんあって、何度も嫌になりました。それでも続けることができたのは「ここでやめたら負け」という強い気持ちをもっていたからです。そして、さまざまな人との出会いが支えになりました。

でも今は、その気持ちも少し揺らいできています。いまの日本では農業だけで生計を立てていくには不安なことがとても多いからです。例えば、若い人が不足しているため、高齢者が重労働をしなければなりません。高齢になって農業をやめても、後継者がいなくて作業をする人手も足りなくなると思います。そして安い農作物が海外から輸入されるので国内の農作物の価格

はあまり上がりません。災害で収穫がなくなれば収入もなくなります。多くの農家が利益も少なく不安定な生活を送っています。私自身、このまま何十年も続けていけるかどうか、毎日とても悩んでいます。

それでも、いまはできる限り農業を続けていきたいと思っています。農業を始めてさまざまな世代の人と出会うようになってから、日本の歴史について知る機会が増えました。そのなかで、昔の偉人のことばに興味をもつようになり、彼らのことばや生き方にとっても励まされています。これからはもっと歴史を勉強して、私を含めいまの若い日本人に欠けているものを見つめ直し、不安と戦いながら強い気持ちで農業を続けていきたいと思っています。

みかさんのブログはこちら

<http://ameblo.jp/kodamanojo/>

わたしの好きなもの

好きなこと

化粧すること。特にギャルメイクが好きです。

好きな野菜

玉ねぎ。食感が好きです。

将来の夢

農業を通じて友だちをたくさんつくること。

農業をやっている楽しいと思うこと

色々な人に出会えること。

大好きな、歴史上の偉人のことば

世の人は 我を何とも言わば言え 我が成す事は 我のみぞ知る
(世間の人からどのように批判をされようとも、自分が成し遂げたことは自分だけがわかっている、という意味。)



この記事は2010年12月に行ったインタビューをもとにTJFが構成しました。